

(第一回)

2019(平成31)年度入学試験問題

国 語

(試験時間：50分)

《注 意》

- (1) 問題は ～ まであります。
- (2) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (3) 受験番号、氏名を忘れずに記入してください。
- (4) 解答に際して、句読点・符号などが含まれる場合には1字分として数えます。

城 西 大 学 附 属

城 西 高 等 学 校

— 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

じつは、学校を二一世紀バージョンに変えようとする試みが行われたことがある。そのひとつが一九八九年の学習指導要領改訂で導入された「^①新しい学力観」である。

これはコンピュータ時代の到来や、追いつき追い越せ路線が終わり、日本もオリジナルのものを提案しなければならぬ状況が到来していることを念頭においた学力観の転換であった。知識や技能を中心とした学力から、思考過程や変化に対する対応力、個性を育てることを重視しようとするものがあった。この転換に合わせて「生活科」という教科が導入され、体験が^aチュウシヨウ化してきた時代の対応として、具体的な生活体験の中での学びを重視することがうたわれた。そしてそれからほぼ一〇年を経て「総合的な学習の時間」が設定された。これは、子どもたちに自発的で総合的な課題学習を課すもので、先生と生徒たちで探究テーマを決め、その課題に協力しながら接近するという参加型学習である。

この試みは^②時代の流れからすると必然的であったが、^③古い学力にこだわるグループからこういう「**A** 教育」では「学力」が低下するという厳しい批判が^b相次いだ。『分数ができない大学生』（東洋経済新報社）などという本も出され、世の中は「学力が低下している」「いや、していない」ということ一色に^cイロドられた論戦が続いた。本当は総合的な学習が広がり定着してからその成果が示され、それと旧学力とはどう違うのかが比べられなければならなかったのだが、総合的学習に慣れていない日本の教師たちには、この教育へのとまどいも大きかった。計算練習をしつかりとさせ、そのあとでテストして定着を図るといふ旧学力のほうに分かりやすいということもあって、次第に雰囲気は「**A** 教育」批判⇨学力低下が深刻化しているという方向に流れてしまった。

文科省の中でも批判派が^d台頭し、結局旧学力重視へ逆戻りした感があったのが二一世紀初頭の教育界の姿であった。せっかくの試みも成果が上がる前に摘み取られた印象が強い。最近の学習指導要領では、旧学力に討議・発表能力などの育成が接ぎ木されたようになっていいる。

（ 中 略 ）

今、小学校でパソコンの使い方が教えられている。何年生からという決まりはなく教育委員会と校長の判断によるが、一応ローマ字入力を基本としているので、ローマ字をある程度学ぶ四年生以降のところが多いようだ。親の姿勢次第では、もう少し早くから子どもにパソコンを扱わせている家庭もある。

使い慣れるとインターネットで情報を集め、メールでやりとりし、写真や絵の加工をパソコンで手掛け……ということが、今は小学生でもある程度可能になりつつある。計算機も安く手に入り、こうして情報^e シュウシュウや計算を機械がやってくれる時代に、あいかわらず知識の記憶や計算力を高

めることを基本とする授業は効果があるのだろうか。

たしかに、計算練習や暗記の練習は悪いことではないと思う。しかしそれは脳を活性化させる手段として位置づけ、必要と判断すれば習慣化すればいいことで、^④それがその子の学力評価の重要な内容になり、その子の一生を決めるようなものにする必要はないはずだ。そもそもコンピュータなどで調べて済むことを覚えるのが勉強なのか。

情報化社会といわれ、家では親よりもむしろスマホの機能をよく知っている子どもたちに、それ以前の古い時代の教育のやり方を押しつけているといわれても仕方がないのではないか。

ヨーロッパの小学校でも、計算式を書くまではやるが、あとは基本的に計算機に任せている。以前ドイツの高校で数学の授業を見学する機会があったが、全員が計算機を使って計算していた。なぜ筆算ではなく計算機を使うのかと先生に尋ねると、「社会に出たときに筆算でやる必要があるか、ということです。だったら計算機をしっかりと使えたほうが役に立つ」と明快な答えが返ってきた。

日本人には一見そぐわない感覚だ。「人の頭は使ったほうがいい。単純な作業と分かってはいても、多少面倒でも頭のためにはこちらのほうがよい」というのが^⑤日本的な教養観なのかもしれない。

中学で覚える因数分解も連立方程式も、社会に出てからその分野を専門とする職業についた人以外の人を使うことはまずない。それなのにこうした計算ができないと数学の点数が低くなり、その人の一生にも影響するというのは冷静に考えればおかしな話だ。

国際教育到達度評価学会（IEA）が世界の小学四年生と中学二年生を対象に数学と理科の学力を調査している。一番新しい二〇一一年調査では、参加五〇カ国のうち計算力では日本の小四は五番目の成績だったが、「数学に対して自信がありますか？」という問いに「自信がある」と答えたのは九％で、世界平均の三四％を大きく下回って最下位であった。また、「わたしは数学が好きだ」に対して「強くそう思う」と答えた小四は三二・一％で、これも世界平均の五八・七％を下回っていた。

せっかく計算練習をたくさんやっても、自信が育たず、好きにもなれない。こうした傾向は、これまでの教育方式を改めるべきことを強く促していると考えるべきだろう。計算のスキルだけでなく、「数ってなんだろう？」とか、考える学問としての面白さを伝えていくべきだ。子どもたちが興味を持つて取り組み、自信が身につく教育方法を考え出すべきだ。

たとえば、

B

人間の頭はもつともつと柔軟に働く。コンピュータをコントロールできる力は欠かせないが、同時にコンピュータではできない力をもつと伸ばしていかないと、人間が人間であることを失ってしまう。

コンピュータにはできないことは、感じるということだ。面白いという気持ちを育てること、ある

いは疑問を持つこと、あるいは感情で判断すること。「なんて不思議なんだろう」「きれいだね」「ほっとするね」、人間しか感じ得ない感情や感性を、体験を重ねながら豊かにする。学校をそんな学びの場にしていかななくてはならない。

(汐見稔幸『本当は怖い小学一年生』)

問一 本文中の~~~~部 a～e のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二 ——部①「新しい学力観」とあるが、それはどのようなものか。その説明が書かれている一文を探し、最初の五字を答えなさい。

問三 ——部②「時代の流れからすると必然的であった」とあるが、それはどういうことか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア コンピュータ時代の到来は以前から予測できたことであり、教科書や資料がデータ化されるのも時間の問題だということ。

イ 「総合的な学習の時間」が設定されることは、それまでの日本の教育とは違った方向性へ進むことであり、反対意見が出て当然だということ。

ウ 子どもたちに自発的に学習させるといふ考え方は、時代が変化する中で生まれた新たな教育方針であり、自然な流れで生まれたものであるということ。

エ 子どもたちの個性を尊重することは、知識を増やすことよりも重要であり、一般的な学力が低下しても仕方がないということ。

問四 ——部③「古い学力」とあるが、その具体例としてもっともふさわしいものを次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 歴史上の事件や重要人物を、それぞれの時代に合わせて並び替える力。

イ 確率を求めるための法則を見つけ、その解き方を説明する力。

ウ 故事成語や慣用句の意味や成り立ちを、正しく記憶する力。

エ 地層の構造を、その地域の特徴に合わせて予測し、調査する力。

オ 日本の文化について英語でレポートを書き、わかりやすく発表する力。

問五 空欄 A にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 詰め込み イ スパルタ ウ 一斉 エ ゆとり

問六 ——部④「それ」とあるが、何のことを指しているのか。本文中から抜き出して答えなさい。

問七 — 部⑤ 「日本的な教養観」とあるが、それに対して「ヨーロッパ的な教養観」はどのような考えか。本文の内容をもとに、三十字以内で解答欄に合うように説明しなさい。

問八 空欄 B には、「子どもたちが興味を持って取り組み、自信が身につく教育方法」の具体例が入る。あなたの思いつく具体例を八十字以上百字以内で記述しなさい。その際、「私は……時、……と教える」の形で記述すること。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

翔子は付き合っていた男性を会社の後輩女性に奪われてしまった。そして、その二人の結婚式には絶対に呼んでもらうことを条件に別れた。翔子は世間ではタブーとされている純白のドレスで式に参加したのであった。その後、翔子は小林駅近辺おぼやしに引っ越し、新たな生活をスタートさせていた。この場面は、ある日の小林駅構内の一コマである。

小林駅を目の前に、ガクンと電車が横揺れした。今日の運転士は新米なのか、ブレーキングがスムーズではなく、油断していると慌てて吊革を掴つかまなくてはならなくなる。

目測通り階段の前で停まった電車から降りると、その階段をキャー、と黄色い声が駆け下りてきた。赤いランドセルに黄色い帽子、おそらく小学校の一、二年生だろう。数人の女の子の集団だ。

滑り込みセーフで間に合った電車に駆け込むのかと思ったら、どうも様子がおかしい。階段の裏側、エスカレーターが設置してある電車の後方へ回り込み、クスクス笑っている。

その笑い方が幼いくせに既に女の①卑いやしさを含んでいて、翔子は思わず眉Aをひそめた。階段の手前で様子を窺うかがっている大人がいるとも知らないで、少女たちは内緒話を始めた。内緒にしてはやや大きな声は、はしゃいで興奮しているせいだろう。

「○○ちゃんはここに隠れててね！ ××さんが来たらわたしたち知らんふりして帰らせちゃうからー！」

「う。うん……」

戸惑った風情のままに階段裏に押し込まれたのは○○ちゃんだろう。気配を感じて翔子がふと階段を見上げると、階段を下りてくる途中で足を止めた女の子がいた。やはり赤いランドセルに黄色い帽子。その子が少女たちの話している××さんだと分かった。

××さんは②やや表情を硬くして、階段を下りてきた。翔子の前を通り過ぎ、少女たちのほうへ向かう。

B 事の顛末てんまつに興味を湧いて、翔子は何気ない風情で階段の手すりにもたれた。

「あっ、××さん！」

下手な小芝居でその集団のリーダーらしい少女が声を上げた。

「○○ちゃんだったら先に帰っちゃったみたいよ！ わたしたちも探したんだけどいなかったし、前の電車に乗ったんじゃないかな？」

××さんは○○ちゃんのことなど一言も訊きいていない。

××さんは少女たちから一定の距離を保ってそれ以上は近づこうとしなかった。

××さんは小芝居を打っている少女の後ろでこらえきれずクスクス笑っている仲間たちを完全に無

視して凜とそこに立っていた。

〇〇ちゃんはほんの数歩先の階段裏に隠れている。

黙ってそこに立ち尽くしている××さんに、リーダーの少女は急に不安になったらしい。

「〇〇ちゃんだったら先に帰ったって言ってるでしょ！」

翔子からは××さんの後ろ姿しか見えないので、彼女がどんな顔でそう言ったのか知らない。

「きいてないのに教えてくれてありがとう」

——お見事。

何気なくその場の空気にまぎれていた翔子の横を通り過ぎたとき、××さんは硬い表情のまま、しかし泣いてはいなかった。

そして少女たちから離れた先頭のほうへ歩いていった。その先はベンチがなくなるギリギリの位置まで。

そして少女たちから一番離れたベンチに腰を掛ける。

その伸びた背筋からメッセージが伝わってくるようだった。

大丈夫よ、私、次の電車が来てもそっちのほうなんか見えないから。電車に乗るときあなたたちの中に〇〇ちゃんがいるかどうかなんて絶対探さないから、安心してね。

こんな年でも少女たちはもう女だった。卑しく、優柔不断で、また誇り高い。

あんな幼い、小さなコミュニティの中に、既に様々な女がいた。

幼い誇り高さが翔子に気まぐれを起こさせた。立ち去った××さんのほうへ歩み寄る。

「隣、いいかしら？」

話しかけると、××さんは怪訝そうに顔を上げた。私の強そうな顔立ちは、幼いころの翔子に似ていた。

「……どうぞ」

今どきの子供は知らない人と喋ったらいけませんという教育が徹底しているのだろうか。××さんは翔子を警戒していることが丸分かりだった。

「私、あなたの知らない人だけど犯罪者になるつもりはないから安心してね」

「……はこ」

「ちょっと声をかけたくなかったの。さっきのあなたはともかっこよかったわ」

××さんは目を睨り、そして耐えかねたように涙をこぼした。

翔子は鞆からハンカチを出し、××さんに渡した。最近では防犯のためだろうか、小学生は名札もつけていない。内緒話で聞き損ねた名前は結局分からないままだった。

「使って。あげるわ」

「でも、ママに怒られる……」

「転んで泣いてたら親切なお姉さんがくれたって言えばいいわ。電車が来たとき、泣いてるのが分かったら悔しいでしょう。今なら私が壁になってるから」

そう言うのと、××さんはぎゅつと唇を噛んで黙々と目元を拭きはじめた。やはり誇り高い。

××さんを仲間外れにしようとした少女たちがこちらを気にしているのは肩越しに窺う気配で分かった。

「あなたみたいな女の子は、きつとこれからいっぱい損をするわ。だけど、見てる人も絶対いるから。あなたのことをカッコいいと思う人もいっぱいいるから。私みたいに」

だから頑張ってるね。

翔子がそう言うのと、××さんはハンカチから顔を上げた。

「お姉さん、幸せ？」

——痛いところを衝かれた。苦笑しながら答える。

「^{*1}幸せになるはずだったんだけど、ちよつと失敗しちゃってやり直し中かな」

でも再就職は順調だった。住みやすい町にも引越せた。そして、——幸せが裏切ったときも刺したいように刺した。後悔はない。

「でも、後悔はしてないわ。ちよつと出遅れたけど、絶対幸せになるわよ」

「じゃあ、シヨウコもがんばる！」

今度は翔子が目を瞠る番だった。字は知らないが、同じ名前だなんて何という奇遇だろう。

カンカンと遠くから踏切の音が聞こえてくる。来るのは西宮北口行きの電車が先だ。

向かいのホームから電車が過ぎ去って、今度はこちらのホームに電車が来る踏切の音だ。

「じゃあ、元気でね」

翔子が立ち上がると、シヨウコちゃんも笑顔で手を振った。そしてまた背筋を伸ばして正面を見る。

彼女の敵が目に入らないように。

階段の手前で翔子は一度足を止めた。

翔子たちの様子を窺っていた少女たちを冷ややかに眺める。なりは子供だが中身はもうそれぞれに女だ。手加減の必要はない。少女たちはそれが☆の眼差しであることを直感で察している。だが翔子に反抗的な表情を返すでもなく、ただ気まずそうに目を伏せるだけだった。

こんな年でも女は相手のランクを見抜いて接してくるが、翔子は自分が子供に舐められるほどちよろい女ではないことを知っていた。自分は老若男女を問わず大抵の相手には威嚇が利く女だ。牙を隠す術は知っているが、一度牙を剥いたら確実に相手の首を獲りにいく。

見知らぬ老婦人に案じられ、^C諫められたほどに。

——^⑥こういう女は幸せになりにくいんだけど。

思わず苦笑がこみ上げる。——でも。

じゃあシヨウコもがんばる！

字面は知らないシヨウコちゃんとの約束だから、幸せにならなくちゃ。

(有川浩『阪急電車』)

※1 翔子は付き合っていた男性を会社の後輩女性に奪われてしまった過去のことを指す。

※2 翔子は裏切られた元彼と後輩女性の結婚式に、世間ではタブーとされている純白のドレスで参加したことを指す。

問一 —— 部A～Cの語句の意味としてもっともふさわしいものを、それぞれのA～Eから一つずつ選びなさい。

A 眉をひそめた

ア 相手の表情から、この人の心を推しはかる様子

イ 心配事が晴れて、ほっとする様子

ウ 他人の言動に怒っている様子

エ 他人の言動を不愉快に感じる様子

B 事の顛末

ア 物事の初めから終わりまでのありさま

イ 物事についての噂や評判

ウ 物事の様子や状態

エ 物事の意味や趣意

C 諷められた

ア 笑われた

イ 叱られた

ウ 心配された

エ 忠告された

問二 —— 部①「卑しさ」とあるが、ここでは「品が悪い」という意味で使われている。具体的にどのようなことか。次のA～Eの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 駅構内で他人の迷惑も考えずに騒いでいること。

イ エスカレーターを駆け降り、駆け込み乗車すること。

ウ 大人がいるにもかかわらず、目の前で内緒話をはじめること。

エ ある少女を仲間外れにしようとしていること。

問三 —— 部②「やや表情を硬くして」とあるが、それはなぜか。その理由としてもっともふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア これから数人の女の子の集団に嫌がらせをされることが明白だから。

イ 階段の下の様子がどうもおかしいことに気がついたから。

ウ 少女たちの様子を窺^{うかが}っている成年女性を不審に思ったから。

エ 数人の女の子の集団と会話したくないので、次の電車が来るまで待っているから。

問四 —— 部③「伸びた背筋」とあるが、ここから表れている少女の様子を端的に表している語句を本文中から探し、漢字一字で抜き出しなさい。

問五 —— 部④「卑しく、優柔不断で、また誇り高い」とあるが、(1)「卑しい」(2)「優柔不断」(3)「誇り高い」、それぞれにもっともふさわしい登場人物を次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 翔子

イ 字面を知らないショウコ

ウ ○○ちゃん

エ その集団のリーダーらしい少女

問六 —— 部⑤「耐えかねたように涙をこぼした」とあるが、この時の「涙をこぼした」理由を七十字以内で説明しなさい。

問七 空欄 ☆ にあてはまる語句は翔子が少女たちに向けた感情を表している。次のア～エの中からもっともふさわしい語句を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 空虚 イ 侮蔑 ウ 後悔 エ 緊張

問八 —— 部⑥「こういう女」とあるが、どのような人物か。次のア～エから、ふさわしくないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一度牙を剥いたら確実に相手の首を獲りに行く女

イ 老若男女問わず大抵の相手には威嚇が利く女

ウ 集団で行動し、相手の威嚇には動じない女

エ 強がりです、他人には自分の弱みをみせられない女

三

次の問に答えなさい。

問一 次の①～③の——部について、正しいものには○を、間違っているものは正しく直しなさい。
解答は漢字、ひらがなどちらでも良い。

- ① 何でも打ち明けられる彼は、気のおける友人だ。
- ② 人に情けをかけると、ゆくゆくは自分に返ってくることを情けは人のためならずと言う。
- ③ 忙しい父には取りつく暇もなかった。

問二 次の①～④の空欄にあてはまる漢字を答えなさい。

- ① 温故知（ ）
- ② 思慮（ ）別
- ③ 才（ ）兼備
- ④ 文武両（ ）

問三 次の①～③の空欄にあてはまる身体の部位名を、それぞれ漢字一字で答えなさい。

- ① 良薬は（ ）に苦し。
- ② （ ）に腹はかえられぬ。
- ③ 寝（ ）に水。

